

ロックウェル推薦図書 2008年2月
『雨鱒の川』川上健一

小学生からこんな質問をされたことがあります。
した。

「先生の将来の夢は何ですか？」

「将来の？」

「私のか？」

「はい、そうです。先生は将来の夢がありますか？」

「そうだな…、」

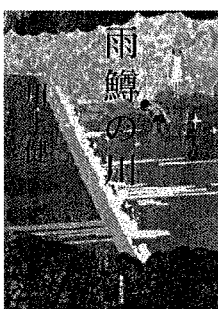
「幸せな老後かな。」

その時はうつかりそのように答えてしまったのですが、実は私にはひそかに夢見ていることがあります。それは、八ヶ岳の山麓でインターネットを使った塾をやりながら自給自足生活を送ることです。

そんな夢をとうに実現しているのが川上健一さんです。川上さんは南アルプスの麓の山村で家族と暮らしながら小説を書いています。青春スポーツ小説を得意としているのですが、今回紹介する『雨鱒の川』は純愛小説で、全国の中学入試や高校入試に毎年どこかで出題される定番作品の一つです。文庫本で350ページあり、小学生が読み通すのは大変かもしれませんが、内容や表現は難しくないので挑戦してみてください。

あらすじ

舞台は東北地方のいなか。母親と二人で貧しい生活をしている心平は絵の才能に恵まれた明るい小学生で、川で魚とることが大好きです。村の資産家で造り酒屋の娘小百合は病気のため耳が聞こえずほとんど話すことができません。心平を慕う小百合は毎日一緒に川で絵を描いたりして遊びます。ふたりは豊かな自然とあたたかい大人たちに包まれて幸せな子供時代を過ごします。心平の描いた魚の絵がパリの国際児童画展で特賞に選ばれ、村を挙げての祝宴の夜に悲劇が起きました。



『雨鱒の川』
あめすのかわ
川上健一
集英社文庫
定価 686 円 (税別)

やがて成長したふたりには「現実」という壁が立ちだけあります。相変わらず絵ばかり描いている心平は一人前のおとなになれません。小百合は、家のあとを継ぐ能力のある男を婿に取らなければならず、心平との交際を禁じられます。小百合の婚礼の前夜ついにふたりは決心するのです。
描写を楽しむ

ここで、小説の読み方についてひとこと。

『雨鱒の川』の前半では心平が川に潜って魚を

とるシーンがえんえんと続きます。先ほど紹介した話の筋を追いかけてやうとするといらいらすほどです。しかし、先を急がず落ち着いて読むと、川の音や水の冷たさ、魚のしなやかな動き、心平の緊張などが生き生きと伝わってきます。

小説は、「話の流れ」と「情景や人物の描写」からなりたっています。「描写」は風景や人物、心理などを、見えるように、聞こえるように表現することです。おもしろい話を読み進めていくことは人から言われなくてもできることですが、表現を味わうことはちよつと高度な読み方です。そのような読み方もしてみてください。そして受験勉強では描写の吟味の方が重要です。入試問題は小説の一場面を切り取っているのです、話の筋は出題しにくいからです。

映画もおすすめ

『雨鱒の川』は映画化もされています。配役は、子役が須賀健太と志田未来、おとなの役が玉木宏と綾瀬はるか、となかなか豪華です。舞台は北海道に設定され、美しい情景が広がります。物語の後半は変えられていて、映画の方がやや明るく希望のある話になっています。

原作・映画ともにすばらしいです。ですからぜひ家族で楽しんでください。私は小説を2回読んで、映画を4回見ました。

ロックウェル新大駅前教室 長谷川玲